

第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価方針の検討

令和7年1月

神奈川県政策局自治振興部地域政策課

これまでの評価方法の振り返り

1 第1期・第2期における評価方法

評価の方針

- ・「小柱」の単位で県事業部局による一次評価を実施
- ・「基本目標」の単位で神奈川県地方創生推進会議による二次評価を実施

■県事業部局による一次評価の方法【小柱ごとに実施】

<第1期（計画期間：2015～2019）>

- ア 主な取組ごとの具体的な取組結果
- イ K P I 達成状況
- ウ 今後の課題と対応方向



総合分析（進捗状況の4段階評価）

<第2期（計画期間：2020～2023）>

- ア 主な取組ごとの具体的な取組結果
- イ K P I 達成状況
- ウ 今後の取組の方向性

※新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ4段階評価は実施せず

■地方創生推進会議による二次評価の方法【基本目標ごとに実施】

<第1期（計画期間：2015～2019）>

- ア 4段階評価
- イ 今後の取組に向けた意見

<第2期（計画期間：2020～2023）>

- ・コロナ禍における県の取組
 - ・Withコロナでの県の今後の取組
- に向けた総合的な意見

※新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ4段階評価は実施せず

第3期総合戦略の評価方法の検討

2 第3期総合戦略の施策体系（ロジックモデル）

■施策の体系

基本目標

人口ビジョンに掲げた克服すべき課題の解決に向けたビジョンを実現するために必要となる定性的な目標

基本目標実現のために必要な
施策の方向性を複数設定



中柱が進展により基本
目標実現に近づく

中柱

基本目標達成に向けて実施する施策の方向性や
取組の柱

中柱実現に必要な施策を複数
設定



小柱の進捗で中柱が進展

小柱

基本目標の実現に向けた施策の最小単位

小柱を具体化



取組の実施で小柱が進捗

主な取組（具体的な取組）

■評価指標

<数値目標>

「基本目標」ごとに政策の達成度合いを検証する
ために設定する定量的な指標



中柱に対応するように各基本目標に数値
目標を複数設定している
⇒基本目標の実現のために不足している
施策の方向性が見える化



<K P I>

「小柱」の達成状況や成果を検証するため、実施
した施策・事業の達成度合いを測るために設定す
る定量的な指標



主な取組を進めることでK P Iの進捗に反映
⇒小柱の進捗状況が見える化



3 第3期総合戦略評価の考え方（案）

①事業部局による一次評価と地方創生推進会議による二次評価の2つの主体による評価の実施は維持

- 一次評価を事業部局が行うことで、KPI達成状況の把握などにより、総合戦略へ位置付けた施策の取組を自身で客観的に振り返ることが可能
- 二次評価として第三者による評価を行うことで、一次評価の妥当性・客観性を担保することが可能

②一次評価・二次評価ともに4段階評価を実施

- 進捗状況を端的にわかりやすく示す

③一次評価では新かながわグランドデザイン実施計画の評価結果も活用

- 第3期総合戦略は、「新かながわグランドデザイン実施計画」から人口減少社会や超高齢社会への対応という観点で施策を抽出していることから、「新かながわグランドデザイン実施計画」の評価結果も活用

④わかりやすい評価報告書の作成

- 総合戦略の取組結果の説明責任を十分に果たしつつ、わかりやすさ、評価自体の「費用対効果」といった点も考慮し、メリハリのある評価報告書の作成

⑤想定し得なかった事態が生じた場合は、その影響などを考慮し、評価手法等を検討

- 第2期におけるコロナ禍のように、計画策定時に想定し得なかった事態が生じ、評価の実施が困難である場合には、その影響なども踏まえながら評価手法等を検討

4 一次評価の実施方法（案）

■評価の単位

- ・ 小柱ごと

■評価項目のイメージ

ア 主な取組ごとの具体的な取組結果（取組内容）

- ・ 主な取組ごとに
 - ✓ 評価対象期間の取組結果
 - ✓ 今後の取組に向けた課題と方向性 をまとめる

<第2期との相違点①>

第2期：「予定どおり進捗」「一部予定通り進捗予定」「予定通り進捗しなかった」の分類に分けて取組結果等を記載

第3期：実際に実施した取組結果を記載

<第2期との相違点②>

第2期：「今後の取組に向けた課題と方向性」は小柱ごとに記載

第3期：第3期では主な取組ごとに記載

イ K P I 達成状況

ウ 総合分析

- ・ K P I 達成状況等を踏まえながら、4段階評価を実施

<4段階評価の区分>

- ・ 順調に進んでいます
- ・ やや遅れています
- ・ 概ね順調に進んでいます
- ・ 遅れています

▼報告書イメージ

(1)成長産業の創出・育成、産業の集積

①未病産業、最先端医療関連産業の創出・育成

【総合分析（県による一次評価）】

概ね順調に進んでいます。

【2023 年度の取組結果と今後の課題と方向性】

○ 未病産業の創出・育成

(取組結果)

・ ME-BYO BRAND の募集・審査を行い、2021 年 5 月に 6 件、2022 年 3 月に 4 件、2023 年 3 月に 6 件、2024 年 3 月に 8 件をそれぞれ認定（2023 年 3 月 31 日付で商品のリニューアルによる販売終了のため、ブランド認定数 1 件減）

・ 未病産業研究会を中心に、講座の開催やマッチング支援、展示会への出展等により、未病産業関連商品の事業化を促進【未病産業研究会の会員数 1,124 社（2024 年 4 月時点）】

(今後の取組に向けた課題と方向性)

・ 未病コンセプトを国内外に発信するための展示会との連携や未病関連の商品・サービスに関する普及を促進

【K P I 進捗状況】

KPI(重要業績評価指標)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
ME—BYO BRAND認定件数(累計)	目標値			18 件	21 件	24 件	27 件
	実績値	14 件	17 件	17 件	27 件	32 件	40 件
	達成率			94.4%	128.5%	133.3%	148.1%
未病産業研究会を通じた未病産業関連商品の事業化件数(累計)	目標値			100 件	125 件	150 件	175 件
	実績値	63 件	75 件	81 件	102 件	132 件	178 件
	達成率			81.0%	81.6%	88.0%	101.7%
県の支援を受けて、県内に集積する最先端医療関連のベンチャー企業数(総数)	目標値			50 社	55 社	60 社	65 社
	実績値	28 社	33 社	37 社	51 社	70 社	93 社
	達成率			74.0%	92.7%	116.6%	143.0%
県の支援を受けて開発された医薬品、再生医療等製品、医療機器の薬事申請等の件数(累計)	目標値			15 件	16 件	17 件	18 件
	実績値	7 件	10 件	12 件	18 件	24 件	28 件
	達成率			80.0%	112.5%	141.1%	155.5%

※内容は第2期総合戦略2020-23年度評価報告書をもとに説明用に作成したもので、実際の内容とは異なります。

5 二次評価の実施方法（案）

■評価の単位

- 基本目標ごと

■評価項目のイメージ

ア 基本目標の4段階評価

- 4段階評価を実施（評価区分は1次評価と同じ）
- 4段階評価の評価根拠（優れている点、進捗が芳しくない点などの意見をいただく）

イ 今後の取組に向けた意見

- 地方創生推進会議から今後の取組に向けた意見をいただく

県事業部局による一次評価を参考にしつつ、
評価部会において、

- 4段階評価
- 4段階評価の根拠（理由）
- 今後の取組に向けた意見

をいただき、二次評価案を作成
↓
地方創生推進会議（全体会議）で二次評価を確定

▼報告書イメージ

**基本目標1 神奈川の成長力を生かして魅力的なしごとを
産み出し、一人ひとりが生き生きと働ける社会
を創る**

ねらい>> 神奈川の成長力を生かした神奈川らしい成長産業の創出などに取り組むことにより、県内に魅力的なしごとの場をつくり、安定した雇用を生み出し、多様な人材が活躍して、多様で柔軟な働き方で一人ひとりが生き生きと働くことができる社会の実現をめざします。

神奈川県地方創生推進会議による二次評価

評価：概ね順調に進んでいます

- …といったところは優れています。
- …といったところは、…と判断できることから、概ね順調に進んでいます。

【今後の取組に向けた意見】

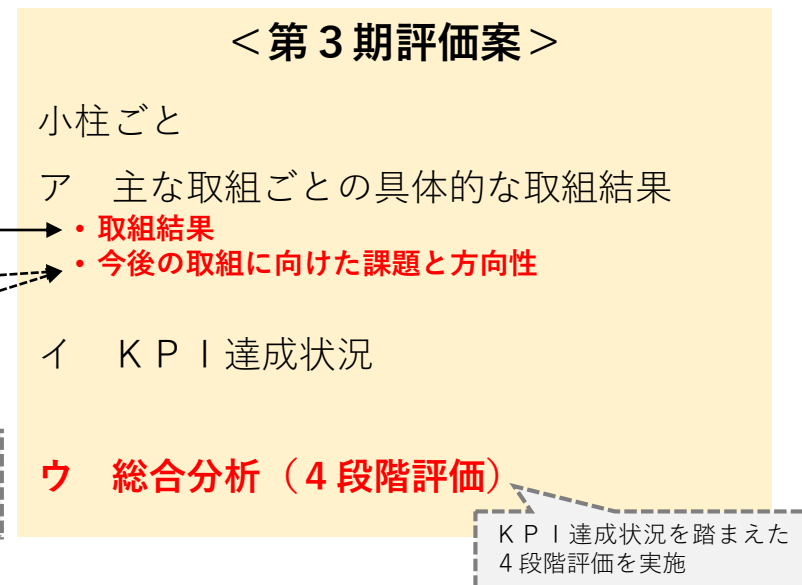
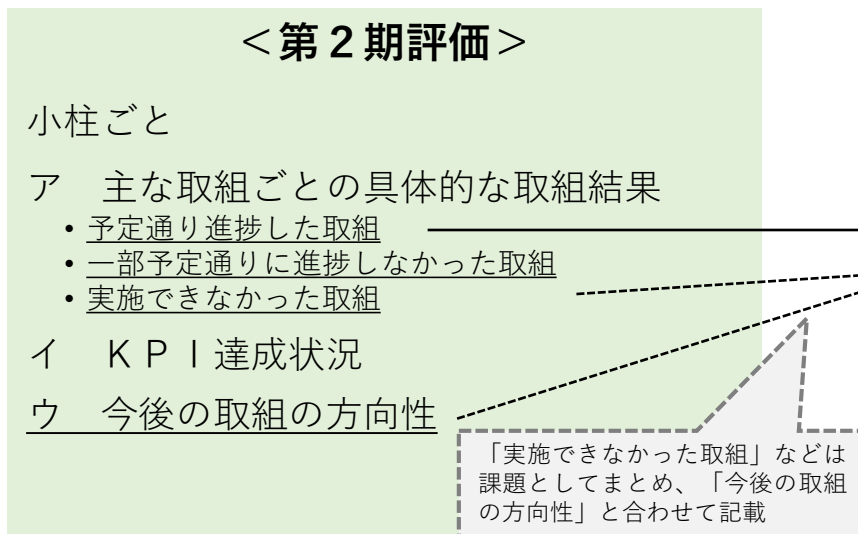
- …といったところは、…と思われます。
- …
- …

【参考】第2期評価方法と第3期評価方法案の相違点

【県事業部局による一次評価】

■評価の単位

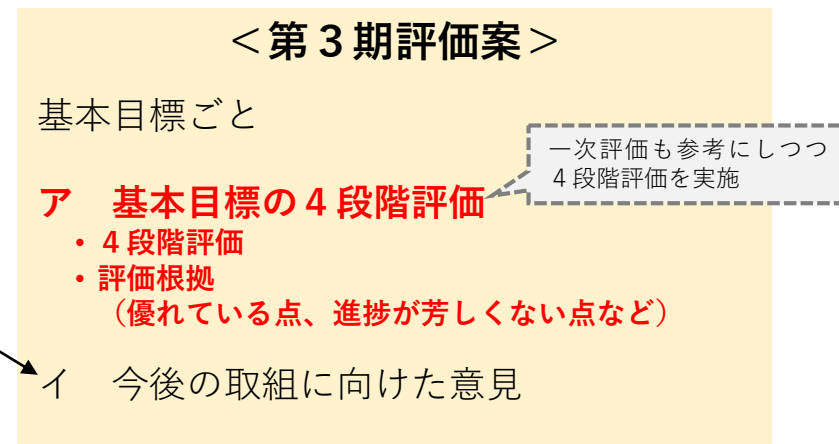
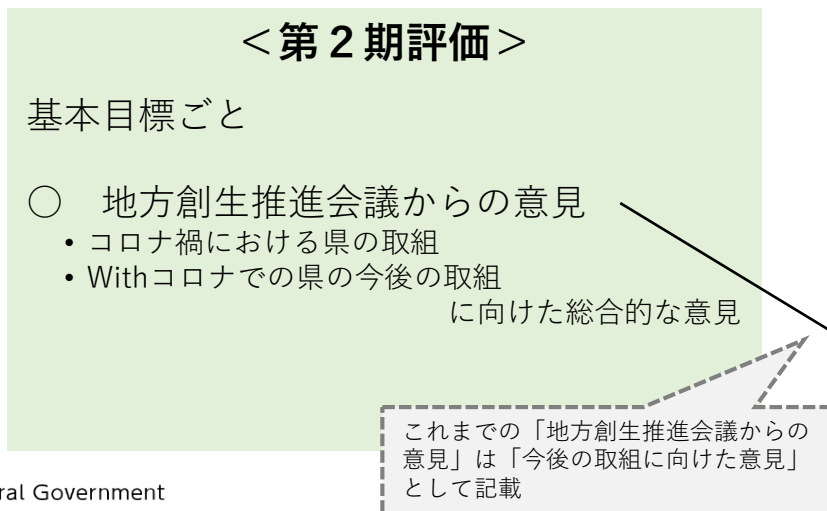
■評価項目



【地方創生推進会議による二次評価】

■評価の単位

■評価項目



【参考】施策体系（ロジックモデル）と一次評価・二次評価の関係

【施策体系（ロジックモデル）】

【評価の視点】

